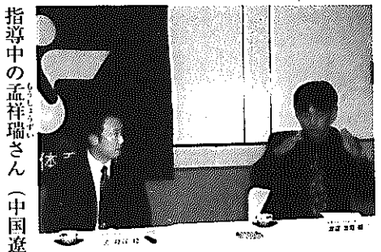
「スポーツを志す少年たちへ」

白根市体育協会40周年記念事業
実行委員会記念誌部会主催座談会

今年四十周年を迎える白根市体育協会では「白根市体育協会四十周年記念事業実行委員会」を設立。記念事業として、六月に「記念式典」を、九月には「スポーツフェスティバル」を予定し、着々と計画を進行中です。また、同委員会記念誌部会では、六月に記念誌を発行します。

十二月十八日、その記念誌に『スポーツを志す少年たちへ』と題した対談の記事を載せたいと、座談会が行われました。

座談会には白根市初のプロ野球選手である渡辺浩司さん（現在日本ハムファイターズ・ファーム打撃コーチ）、新潟県外国人派遣事業により来日し、白根ジュニア卓球教室でも指導中の孟祥瑞（もうしょうずい）さん（中国遼寧省出身）、竹内正市長、笹川豊さん（白根市体育協会会長）の四人が参加。「自らのスポーツ人生」や「スポーツを通して学んだこと」、「スポーツ指導者として」などについて熱く語り合いました。



スポーツを志す子どもたちに向けて、渡辺さんは「夢を持ってほしい。目標に向かう中で反省が生まれ、実になることがある」、孟さんは「卓球を続け、たくさんの良いことがあった。いろいろな場所へ行き、たくさんの人と出会えた。スポーツは素晴らしいです」と話していました。

同記念誌部会では記念誌上に掲載する、スポーツに関するイラストや写真を募集しています。応募先・問い合わせは、カルチャーセンター内白根体育協会事務局（☎373・6311）までお願いします。

手作りミレニアムカレンダー

白根地区公民館
2000年マイカレンダー展

十一月三十日、白根地区公民館主催の「2000年マイカレンダー展」の作品審査が、同館で行われました。

市内外から寄せられた応募作は四十四点。作品は、クレヨン・絵の具・サインペンなどを使って丁寧に描かれたものや、版画で作られた温かな味わいのあるもの、コンピューターグラフィックを駆使して描かれたものなど、さまざまでした。

審査員の桑原良江さん（新潟市）と小柳行弘さん（同）は、「良い作品ばかり。選んでいても楽しいです」と話していました。

楽しいホワイト・クリスマス

クリスマスお楽しみ会

十二月十九日、カルチャーセンターで「白根市手をつなぐ育成会」と「白根市肢体不自由児者父母の会」による『クリスマスお楽しみ会』が行われました。

当日は真っ白な雪が降り、クリスマス・ムードいっぱいでした。会場ではコーラスの発表やお楽しみ抽選会などが次々と行われ、約二百五十人の参加者は、一緒に歌ったり踊ったりして楽しみました。また、サンタクロースにふんした市長などの来賓からお菓子のプレゼントが配られ、子どもたちは大喜びでした。

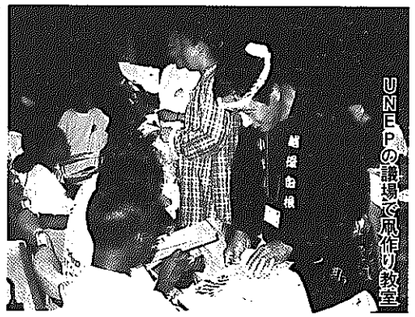
凧で広がる友好の輪

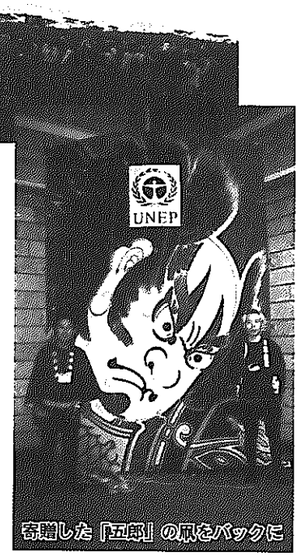
凧揚げフェスティバル'99 in ケニア

十一月二十三・二十四日、アフリカはケニアの首都ナイロビで「セーブ・ザ・ウインド凧揚げフェスティバル」が開かれました。これは「自然環境・風・平和」をテーマに地球環境平和財団と国連環境計画（UNEP）が企画したもので、日本から三十人が参加。凧揚げの風習のないケニアの子どもたちに凧を教えてほしいということで、本市から小笠原昭衛さん（能登二丁目）と遠藤裕巳さん（五六の町二）が参加しました。

初日は、ナイロビの小・中学生約三百五十人を対象に凧作り教室が開かれ、和紙と竹ひごを材料とした「ダイヤ凧」の作り方を指導しました。小笠原さんは「初めての凧作りに、目を輝かせていた子どもたちの姿が忘れられません」と話しています。

翌日は、ナイロビ郊外で凧揚げ大会が開かれました。強風で時々小雨が降る中、子どもたちが作った凧の連凧や、白根の六畳大の凧などを揚げ交流を深めました。「UNEPや日本人学校へ凧をプレゼントしてきました。凧でケニアにさらなる友好の輪が広がればと願っています」と遠藤さんは話しています。





寄贈した「五郎」の凧をバックに

「ンゴング・ヒル」という丘で行われた凧揚げ大会

手作り門松でよい年を

小林地区公民館
ミニ門松づくり教室

十二月十九日、小林地域生活センターでミニ門松づくり教室が開かれました。十一年目となった教室に集まった参加者は二十一人。講師の徳永徳一さん（鍋潟）の指導で、高さ約四十五センチの門松を作りました。

参加者の中には「新しい年は自分で作った門松を飾りたくて」という常連の人や、一人で二つの門松を作る熱心な人もみられました。買った物とはひと味違う、自分だけの手作り作品は、一時間ほどで出来上がり。皆さんにっこりと大事そうに抱えて、家に持ち帰っていました。

夢を抱いてベトナムへ

青年海外協力隊員
表敬訪問

「青年海外協力隊平成十一年度第二次隊」として十二月上旬にベトナムに出発した熊倉裕子さん（中鶴ノ木二）が、十二月一日、市長を表敬訪問しました。熊倉さんは二年間、現地の大学生の日本語教師として活躍します。

「会社に勤めていましたが『若いうちに何かできることを』と考え、青年海外協力隊の試験を受けました。海外で教師になることは、高校生のころからの夢でした」と話す熊倉さん。昨年二月、試験に合格。その後、ベトナム語と日本語教師としての訓練を、六カ月間受けてきました。

「ベトナムの学生は勉強熱心とのこと。やりがいがあります」と、うれしそうに意欲を語ってくれました。